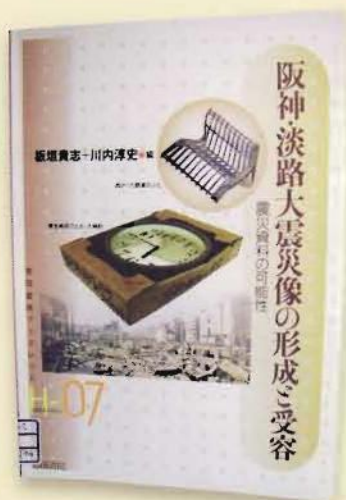




1995年1月17日早朝、阪神・淡路大震災が起きました。2010年はその震災からちょうど15年の節目の年でした。2010年度最後の資料室ニュースでは、この節目の年に出された関連書籍類から所蔵資料をご紹介します。

『阪神・淡路大震災像の形成と受容 ―震災資料の可能性―』



第1部「震災資料を生み出す〈新聞記者〉」と第2部「震災資料を読み解く〈歴史家〉」の2側面から震災資料の可能性についてまとめた書籍。東京と大阪での報道格差について書かれた堀井宏悦氏の「阪神・淡路大震災報道の検証－東京の記者の記憶から－」や、震災報道の軌跡について書かれた板垣貴志氏の「10年間の震災報道シンポジウムの軌跡－報道の原点から被災地間連携へ－」、人と防災未来センター所蔵の震災絵画について書かれた吉川圭太震災資料専門員の「市民が描いた阪神・淡路大震災」など、震災資料に関する多角的な論考が納められています。わたしたちが共有すべき事実は何なのか、引き継ぐべき「記憶」は何か。震災報道・震災資料という新しい側面から震災について考えた書籍です。

登録番号: 9-C/35194 (板垣貴志、川内淳史編、岩田書院発行、2011年)

『MEGAQUAKE 巨大地震』

NHKスペシャルで放送された番組のDVDと書籍。番組は2010年1月から全4回にわたって放送されました。科学技術映像祭の内閣総理大臣賞を受賞した第2回放送・「KOBÉ 15秒の真実」は、わずか15秒の揺れがなぜあれほどの惨禍をもたらしたのか？ということに着目し、最新科学を使って、都市直下の活断層の脅威に迫っています。さらに明らかになった地下のメカニズムに、木造住宅、高速道路、地滑り、それぞれの生存者の証言をもとにした再現ドラマを組み合わせ、15秒の「完全再現」を試みています。

番組制作には近藤誠司研究調査員も関わり、センターでも夏休み子ども企画の一環として上映会を行いました。



DVD『MEGAQUAKE 巨大地震』(全4巻)(NHKエンタープライズ):登録番号:3-A/34396~34399

書籍『MEGAQUAKE 巨大地震』(主婦と生活社):3-A/35155

※上記出版物はセンター東館のミュージアムショップでも取り扱っています。

『震災とアスベスト』

1995年の震災当時、専門家や市民グループから、アスベストの飛散について指摘があったものの、復興を急ぐ被災地では十分な対策がとられなかった。2008年、震災時の解体現場作業員がアスベストが原因の中皮腫を発症し、労災認定を受けた。これは「震災の第三次被害」と呼ばれています。本書は震災時における建造物のアスベスト飛散問題を検証するシンポジウムの記録です。

登録番号:5-A/イリ/35299

(NPO法人ひょうご労働安全衛生センター 震災とアスベストを考えるシンポジウム実行委員会編、アットワークス、2010年)



『阪神・淡路大震災から15年 伝えていきたい防災力』

震災から15年が経過し、被災地からも震災の爪痕が見えにくくなっている。震災後に生まれた子どもは中学生になり、大人でも震災を体験していない人が増加している。

月日とともに被災地でも記憶は薄れていくが、阪神・淡路大震災以降も、新潟県中越地震や岩手・宮城内陸地震など、大きな被害をもたらした地震が相次いでいる。このDVDでは、震災が残した教訓を確認しながら、地震に強い街づくりに取り組む為に、どのような心構えが必要なのかをまとめています。

登録番号:5-B/ボウ/35149 (小出治、加藤孝明監修、映学社、2010年)

『神戸チャイナ倶楽部』

古箏奏者、伍芳(ウー・ファン)の日本デビュー15周年記念CD。伍芳は、中国・上海生まれ。阪神・淡路大震災で最愛の姉を亡くして以来神戸に住み、そこを拠点に音楽活動を行っている。震災で大きな被害を受けた西須磨幼稚園の園児たちの歌声と共演する「祝福～神戸の未来に願いを込めて～」など、第二の故郷・神戸に捧げるオマージュ作品が収められています。

登録番号:5-E/ブンカ/35345 (伍芳、BELLWOOD RECORD、2010年)



第11回 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会が開催されました

2月21日、当センターにて「第11回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」(主催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター)が開かれました。この会は、センター開館以来、震災資料の保存や活用方法について議論するために神戸大学と連携して開催されています。毎回、震災資料保存機関の関係者や研究者が集い、それぞれの機関の取り組みなどが報告されます。

11回目となる今回は、前ページでもご紹介しました「阪神・淡路大震災像の形成と受容 ―震災資料の可能性―」の書評や、神戸市震災関連行政文書整理事業の現状について発表がありました。また、当センター資料室からも、新聞紙資料の保存処置計画と課題について報告しました。報告後の意見交換会では、質疑応答や活発な議論がなされ、他機関との情報共有の場となりました。



意見交換会の様子

資料室企画展「戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災」を開催しました。

資料室では、2011年1月12日(水)～2月27日(日)まで、企画展を開催しました。

展示風景

阪神・淡路大震災の発生は、神戸をはじめとする被災地に大きなダメージを与えました。

震災を扱うとき、どうしても震災前と震災後を切り離して考える傾向があります。それに対し、今回の企画展では、あくまで震災を戦後神戸の歩みの一環として捉え直してみようとしたものです。



①ケミカル・シューズ工場作業風景



②工場の建ち並ぶ脇浜



③「和田岬線」の通勤風景(1964年)



④山、海へ行く

展示の内容

神戸は激しい空襲を受け、市街地や工業地帯を中心に焼け野原となりました。その後は、日本の復興や、それに引き続く高度経済成長の中で発展を遂げます。

しかし、1970年代に入ると、ニクソン・ショック、オイル・ショックの影響で、日本製品が海外市場で競争力を失っていきます。また、神戸を代表する地場産業である酒造業やケミカルシューズ製造業などは、需要が落ち込むようになります。

また、神戸では、郊外や埋立によって住宅地・工業用地をしたため、人口と産業の空洞化、いわゆる「インナーシティ問題」が発生しました。

震災後、人口の減少や地場産業の不振などが問題視されています。

しかし、大きな流れで見ると、こうした問題は、震災前から引き続く問題として捉える必要があると考えられます。

一方、震災を契機として、多文化共生の模索などさまざまな活動が出てきたことも併せて展示しました。



⑤長田の被災状況



⑥NTTによる電話サービス



⑦仮設住宅



⑧長田・アジア自由市場

来館者の感想より

- 震災前の神戸の状況と震災後の変化がうまく表現されていた。
- 震災を物語る資料を見て、被害の大きさにがく然とした。
- 震災が地震だけの影響ではなく、それまでの世情が影響していることが分かりました。

写真提供

- ①神戸市文書館 ②米田定蔵・英男氏
③・④大木本美通氏
⑤～⑧人と防災未来センター所蔵

しまわれていた写真 震災当時の神戸市長田区松野通

芦屋市在住の塚田由美さんより写真資料をお借りしました。当時、塚田さんは神戸市長田区松野通にお住まいで、自宅が半壊しました。地震から約2時間後、辺りがガス臭くなってきたために、家族とともにガレキの中を歩いて近所の高校に避難しましたが、その後自宅に火が回り全焼。姉や友人の家に滞在するなどして生活したそうです。

今回お借りした写真は、おそらく地震から2日後、須磨区の姉の家に滞在していた頃に撮影した写真だと言います。母の宝石類を探しに自宅跡に戻ったときに撮影したそうです。「後世に残すというような大げさなことではなく、あまりにも悲惨すぎて撮ったのだと思う」と話してくださいました。また、「火が回って、辺りが焼けてしまうとは思っていなかったの、地震直前の様子も記録しておけばよかった」とも話しておられました。

しかし写真を撮ったものの、見ると具合が悪くなってしまい、10年ぐらいはまともに見ることはできませんでした。写真を直視できるようになったのは3、4年前。きっかけは、知り合いが塚田さんのことを「この人は震災の生き残りやで」と人に紹介したことでした。そこから、「私が撮った写真があるので、見せましょうか」という話になり、アルバムを開くことになりました。その際、久々に写真を目にしましたが、もう体調は悪くなりませんでした。その後、東京で書道教室をしている知人が「子どもたちに見せたい」と言って写真をコピーして持ち帰ったこともあるそうです。

お借りした写真は複写させていただき、インターネット上でもご覧いただけるようにしています。ここで紹介している以外にも、塚田さんが撮影した震災当時の長田区松野通近辺の写真をご覧いただけます。

資料検索ページのアドレスは、<http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp> です。



神戸市長田区松野通4丁目の被害状況



神戸デパート周辺の被害状況

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター 資料室(西館5階)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30~17:30(展示スペースとは時間が異なりますので、ご注意下さい)

開室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日~1月3日

資料室は無料で
ご利用いただけます